JENESYS 2022

韓国青年訪日団第 2～4 団（招へい）の記録

１．プログラム概要

【目的】「対日理解促進交流プログラム(JENESYS2022)」の一環として、在大韓民国日本国大使館、在釜山日本国総領事館、在済州日本国総領事館にて選抜された大学生等を招へいし、テーマ「防災ツーリズム～東日本大震災被災地復興視察」の下、各種視察、講義、学校訪問等を通じて、日本に対する理解を深めることにより、今後の日韓間の相互理解と信頼関係の増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】

プレプログラム（オンライン）：韓国の大学生等 123 名

招へい（オフライン）：韓国の大学生等 123 名

【訪問地】

東京都、宮城県、岩手県、千葉県、埼玉県

２．日程

プレプログラム（オンライン）：

1 月 6 日（金）訪日前オリエンテーション

来日プログラム：

1 月 13 日（金）　成田・羽田空港より入国、来日時オリエンテーション

1 月 14 日（土）　宮城県へ移動、【視察】松島周辺（大きな津波の被害がなかった事例とその理由を考察）

1 月 15 日（日）【視察・地元住民ボランティア講話】石巻市内の復興状況、女川地域の復興状況（防潮堤のない街づくり事例）、【視察】震災遺構 石巻市立大川小学校

1 月 16 日（月）【視察・地元住民ボランティア講話】南三陸地域の復興状況（かさ上げ復興事例）、震災遺構　高野会館等、岩手県へ移動、【視察】東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル、南三陸さんさん商店街

1 月 17 日（火）　東京へ移動、【講義】外務省「最近の日韓関係」

1 月 18 日（水）【大学訪問】第 2 団：城西国際大学、第 3 団：獨協大学、第 4 団：法政大学、成果報告会

1 月 19 日（木）　成田・羽田空港より出国

３．プログラム記録写真　（訪問地：東京都、宮城県、岩手県、千葉県、埼玉県）

1 月 15 日【視察】石巻市内の復興状況	1 月 15 日【視察】女川地域の復興状況（防潮堤のない街づくり事例）
1 月 15 日【視察】震災遺構 石巻市立大川小学校	1 月 16 日【視察】南三陸地域の復興状況（かさ上げ復興事例）震災遺構　高野会館等
1 月 16 日【視察】東日本大震災津波伝承館いわて TSUNAMI メモリアル	1 月 17 日【講義】外務省「最近の日韓関係」

1 月 18 日【大学訪問】城西国際大学	1 月 18 日【大学訪問】獨協大学
1 月 18 日【大学訪問】法政大学	1 月 18 日【成果報告会】

４．参加者の感想（抜粋）

◆　韓国　学生

宮城県と岩手県の視察を通じて、自然災害の残酷さや悲惨さをリアルに感じ、対応や避難方法について深く考えるきっかけとなりました。普通の旅行ではできない有意義な時間であり、東京とは違った静かで美しい地方の新しい魅力も発見できて大変良い経験となりました。

◆　韓国　学生

被災したという悲しみを忘れてしまおうとするのではなく、痛みを記憶し、今後も起こりうる災害に備えて伝承する日本人の姿が素晴らしいと思いました。過去の経験を教訓として後世に伝え、再び悲劇を繰り返さないように防災対策をしようと考えるきっかけとなりました。

◆　韓国　学生

東日本大震災関連視察で被災者の方のお話を実際に聞くことによって、メディアを通じて見聞きしていたものとは違い、現実として実感することができました。そして私たちにもこのような悲惨な災害がいつでも起こりうると考えるようになりました。重要なことは今、家族や友達と一緒に過ごす平凡な日常を大切にすること、今後どのような災害が起こるかわ

からないため前もって準備をしておくこと、そして周りの人にも伝えて備えてもらうことだと思いました。私が見聞きしたことをしっかり伝えていきたいです。

◆　韓国　学生

東日本大震災で犠牲になった方のご遺族や親しくしていた方のお話を直接聞くことができたことが大変良かったです。実際に被災した建物や現場を視察したことで実感できたこともありましたが、やはりお話を通して学んだことが一番良かったと思います。

５．受入れ側の感想（抜粋）

◆　視察先の語り部

今回はわざわざ韓国からお越しいただいて、とても嬉しかったです。被災当時は家が流され、避難所生活をしていた時に、韓国等の救援物資が届き大変ありがたくいただき、そのお礼もすることができました。自分たちが震災で体験したことを他の人には体験してほしくないので、韓国の皆さんにも私たちの経験が何かしらの教訓にして、役立てていただければと思います。自然災害はいつ何が発生するかわからないため、いつでも命を守る備えをしていただければと思います。

◆　訪問大学学生

韓国の学生から岩手県と宮城県の被災地視察の感想を聞いた際に、自分には起こりえない事だと思っていたけれど、他人事ではない、誰にでも起こりうることだと気づいたと話していたのが印象的でした。韓国の学生の皆さんが日本で起きた震災についてとても真剣に考えてくれていることがわかり嬉しかったです。

◆　訪問大学学生

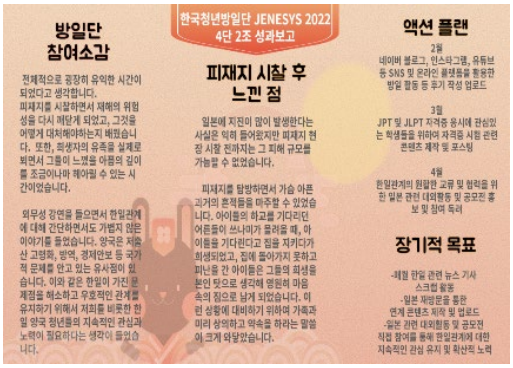
日本語しか話すことができず、不安が大きかったのですが、実際参加してみて大切なのは言語じゃないことを実感することができました。今まで外国の方と関わる機会がなかったので、すごく貴重な経験となりました。短い時間でしたが友達になることができ、韓国で会う約束もしました。今回の交流会で終わることなく、さらなる交流に繋げることができてよかったです。

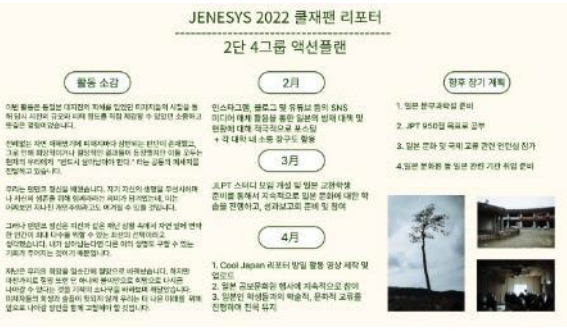
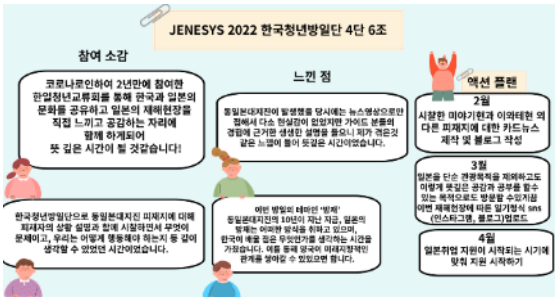
６．参加者の対外発信

石巻市・女川町視察についての発信 2 つの都市は被害が深刻であったという共通点を持っているが、今後の災害を防止するために選択した方法は違いました。地域の特性と住民の意見が反映された結果、女川は防潮堤を設置せずに町を 10mかさ上げする工事を行いました。いつも海とともに生きてきて、海を見なくては生きていけないという住民の意思が反映された結果でした。被災された住民がガイドとなり、当時の状況と変化を説明してくれたため、とても有意義な時間でした。悲しみを乗り越え、他の人が同じような経験をしないよう伝えていく役割を担っていることが素晴らしいと思いました。	被災地視察についての発信 かつては生活の基盤であった大地と海が黒い波となって押し寄せてくる瞬間の感情と苦痛は計り知れないが、それでも被災者の方が希望を失わずにいる姿を忘れずに生きていこうと思います。また、被災地をそのまま保存し、故郷を離れない姿から防災に対する強い思いを感じることができました。 「命を守る」。被災地視察でとても印象に残った言葉です。津波と地震、私には関係ないと思っている人も多いと思いますが、訪日を通じて強く感じたのは「災害は誰にも予想することができない」ということです。大切な命を守るため、守れなかった命を忘れないため、この発信によって私たちが防災について考えるきっかけになることを願っています。
石巻市視察についての発信 津波被害を記憶し、伝えるための展示館を訪れました。被災者の方の遺品や津波発生当時、人々がどのように避難したのかを記録した映像などが展示されていました。地震が起きてから津波が来るまでは時間があるため、生きるためにどのように対処したらいいのか考えることも大切だという語り部の方の言葉が印象に残りました。 また、このことを家族や友達に伝えて自然災害が起きたときにすぐに対応できるようにしなければならないと感じました。	高野会館視察についての発信 被災されたホテル観洋の職員の方の経験談とともに震災遺構を含む南三陸の被災状況を視察しました。近所にあった小学校と結婚式場であった高野会館、防災庁舎を見学し、もし震災のときに私がそこにいたら津波の高さに圧倒されて身体が動かなくなってしまっただろうと思いました。また、被災者の方のお話から津波は地震の後にくる災害のため、十分に逃げられること、家族とともに避難について話す時間を作り、大切な人と時間を奪われないようにするという教訓を得ることができました。

大川小学校訪問についての発信 大川小学校での語り部の方のお話は本当に心に響きました。大震災によって当時小学校6年生だった娘を亡くされた方からお話を聞きましたが、淡々と話してくださる中にも滲み出てくる悲しみと痛みが伝わってきました。語り部の方は震災の被害と痛みだけでなく、その後の再建と復興についても説明してくださり、最後に「この痛みを繰り返さないために話をしている」とおっしゃいました。日本で実際に聞いた東日本大震災、残された人々の悲しみと痛み、そして未来への希望を感じることができる場所でした。	学校訪問についての発信 獨協大学で日本の学生と交流しました。前日まで岩手県と宮城県の被災地を訪問し、震災時の状況を聞きましたが、この時に感じたことを獨協大学の学生に発表し、「被災地域への人口流入方策」をテーマに対策をまとめました。自然災害体験プログラム、公共機関や大学を被災地に移転、特産品やキャラクター製作を通じた地域広報などのアイデアが出ました。 被災地が迅速に復興することで日本人と韓国人の交流の機会も増加し、より友好的な日韓関係が維持できることを願っています。

7．報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
アクション・プランの発表 1 -プログラム参加の感想をブログ・カードニュース等、さまざまな方法でアップロードする。 -大学訪問で出会った学生と交流を続ける。 -訪日団の Vlog を制作する。	アクション・プランの発表 2 -Instagram、YouTube、Naver ブログなどのオンラインプラットフォームを活用し、プログラムの体験談をまとめてアップロードする。 -日本語能力試験に関心のある学生のために資格関連コンテンツを制作してアップ

-東日本大震災 12 周年に合わせて SNS 発信を行う。	ロードする。 -日韓の円滑な交流と協力のために日本関連の学外活動やコンペティションへの応募を促す活動を行う。
	
アクション・プランの発表 3 -Instagram、ブログ、Youtube などの SNS や所属大学で日本の災害への対策等について発信する。 -日本語能力試験の勉強や交換留学準備を通して、引き続き日本文化について学習する。 -訪日団での活動をまとめた動画を制作してアップロードする。 -日本人学生との交流を続け、親睦を深める。	アクション・プランの発表 4 -視察した宮城県や岩手県の他にもさまざまな被災地についてカードニュースにまとめてブログで発信する。 -単なる観光ではなく訪日団のように共感や学習ができるような形で日本を訪問してもらうために、被災地を扱った記事を日記形式で SNS にアップロードする。 -日本での就職活動が始まる時期に合わせて、エントリーを行う。

実施団体名：公益財団法人　日韓文化交流基金